社大同窓会

vol. 90
2022

同窓会×大学
パートナーシップ推進

JCSWキャラクターの「ワンス」と「テプニャン」です

ワンスとテプニャンはボランティアセンターと同窓会の活動をたくさんの人に知ってもらい、参加してもらうために登場したキャラクターです。
（8ページにキャラクターの作者登場）

●キャラクタープロフィール

ワンス

出身：清瀬市竹丘湖
所属：子ども・家庭福祉コース
趣味・特技：食べ歩き、ボランティア

テプニャン

出身：清瀬市アガペ村
所属：保健福祉コース
趣味・特技：テニス、イラスト

福祉の最前線へ

「社大同窓会」第90号！

同窓会誌「社大同窓会」（旧タイトル「原宿会」）が創刊されたのは、同窓会組織が再建された年の1976年10月のことですが、爾来約45年間年2回の発行につとめてきました。

同窓会は、社会福祉の実践者として2026年の母校創立80周年・同窓会再建50周年に向けて、これからも社大教育と実践をしっかりつないでまいりますので、“ワンス”と“テプニャン”ともどもご支援よろしくお願いいたします。

同窓会会長　岩崎　俊雄

発行所／日本社会事業大学同窓会　〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30　電話042-496-3053　振替口座 00100-9-42448
ホームページ　http://jcsw-alumni.com/
編集・印刷／株式会社 JA情報サービス（日本農業新聞グループ）　発行日／令和4年10月1日

2022年国家試験合格に向けて／教員応援メッセージ

1月7日

雪景色の大学キャンパス

東京都心で4年ぶりに積雪

学生サークル"JCSWブラスバンド"
定期演奏会

3月18日

学位授与式（卒業式）

分散会場にLIVE配信

▶卒業生の皆様へのメッセージカード◀

社大の伝統をしっかり受け継いでいこう！

昨今の社会情勢は、医療技術の進歩や、バリアフリーの充実、差別解消など目覚ましい進歩を遂げている一方で、少子化、高齢化は依然進む一方であり、貧困はより問題として大きくなっています。その他多くの社会問題や福祉問題に関してもあらゆる形に変化し、複雑化し、多くが解決されないまま更なる広がりを見せている現状があります。

このような激流とも言える時代の中で生きていく上で、高くそびえ立つ社会という壁に、この大学で学んだ実践力、人を理解する尊重の精神、そして先輩方の輝かしい個性を活かして、挑んでいって欲しいと心から願っています。

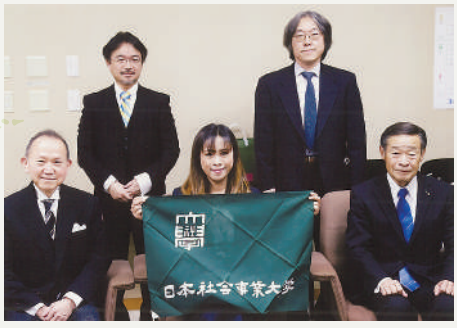
私たちは日本社会事業大学の学生として、先輩方の守り、受け継いできた姿を、伝統を、これからもしっかり受け継いでいきたいと思っています。

3月18日　在校生代表　栁澤凛（学生自治会）

3月26日

法人と同窓会の意見交換会

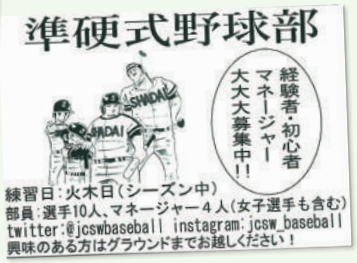
留学生の卒業を祝う会



ゲストのナタパットさん
（母校交流協定校
・タイの国立タマサト
大学出身）を囲んで

4月1日

1年生・編入生オリエンテーション



新入生サークル説明会

6月4日・5日

第51回社大祭

実行委員会出陣式

清瀬市産直野菜販売

澁谷清瀬市長にも来校いただきました

今年のテーマは
「Together」でした

入学式

4月4日

明日の福祉の
担い手は
ここから

在校生代表挨拶

6月25日・26日

社大福祉フォーラム2022
（第60回研究大会）

2022年度木田賞贈呈／
栗原信氏（学部30期）岸山真理子氏（研究科53期）

演劇研究会

メンバー写真

我々演劇研究会がいつも活動している
集会室Ｂの前での１枚です！

「演劇研究会」って？

演劇研究会は、経験を問わず、「演劇が好きだ！」「お芝居をやってみたい！」という同志を募り、活動しています。加えて、自主的に演劇公演を企画し、開催しております。

演研活動メモ

令和４年度

４月	新入生オリエンテーションにおける公演「軒先にて」（作：阿部竜平）
６月	大学祭公演「失恋演劇部」（作：穂村一彦、脚色：武田千笑）
	演劇ワークショップの開催
12月	（予定）冬公演
３月	（予定）卒業公演

活動写真

こちらは先輩方による、とある大河ドラマのある名シーンの再現。伝わる方には伝わるかも？

同じく台本読みの様子ですが、こちらは２人芝居

こちらはみんなで台本を読んでいる様子

これからの活動について

▶新入メンバー

新１年生が２人加入してくれました！！新入生2人が加わった新演劇研究会は一味違います！？Twitterから、大学祭公演の様子や過去作の動画をご覧になれますので是非ご覧下さい！！

▶活動などの予告

現在(7月)は、公演の脚本選びを兼ねて、様々なジャンルの脚本を用いて練習をしております。また、脚本が決まり次第、公演に向けて練習を行います。経験を問わず、意見を出し合いながら、作品を作り上げていきます。

▶皆様へのメッセージ

いつも皆様には温かく見守って頂き、とても感謝の気持ちでいっぱいです。演劇研究会は、大学が原宿にあった頃から存在する歴史のあるサークルです。先輩方の伝統を受け継ぎつつ、代毎に色が異なることも魅力の一つであります。この魅力あるサークル活動に取り組み、演劇を通して「楽しさ」や「つながり」を伝えていきたいです。

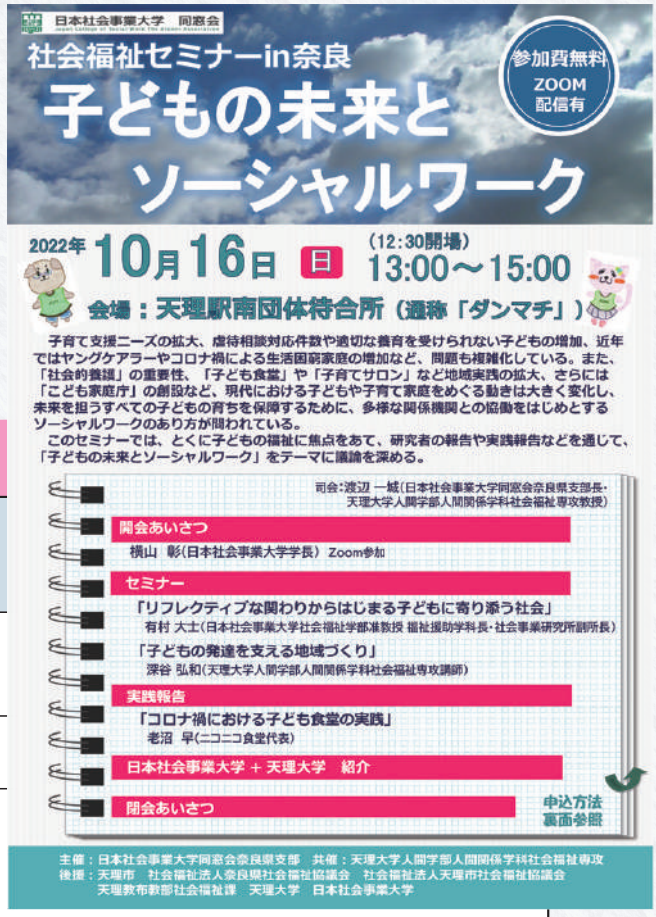
これからも何卒宜しくお願い致します！！

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

お申し込み案内

社会福祉セミナーを開催します！

本セミナーは、日本社会事業大学と同窓会が連携して教職員、学生、卒業生、福祉関連従事者が、互いに情報交換し福祉を捉えなおす機会として実施するものです。（全国の同窓会支部を中心に年2回のペースで開催予定）



奈良セミナー

【テーマ】 子どもの未来とソーシャルワーク

（誌面のプログラムをご覧ください）

日　時	2022年10月16日（日） 13:00～15:00（開場：12:30）
会　場	天理駅南団体待合所（通称「ダンマチ」）
開催形式	会場とオンラインの両方で開催 会場参加30名　/Zoom参加50名 参加費無料、どなたでも参加できます

岩手セミナー

【テーマ】 社会福祉法人の今後のあり方を考える

日　時	2022年11月19日（土）　13:30～16:00（開場：13:00）
会　場	プラザおでって大会議室（盛岡市中ノ橋通）
開催形式	会場とオンラインの両方で開催　会場参加40名　/Zoom参加50名 参加費無料、どなたでも参加できます
講　演	「人口減少と歩む社会福祉法人」 武居敏氏（日本社会事業大学理事・社会福祉法人聖隷福祉事業団監事）
パネルディスカッション	県内社会福祉法人代表によるパネルディスカッションを行います

お申し込み方法（奈良・岩手共通）

右記の「お申し込みフォーム」よりお申し込みください。⇒https://fs220.xbit.jp/b646/form2/
※お申し込みいただいたアドレスに視聴するためのURL又はご来場の案内等をお知らせします。
「同窓会HP」からもお申し込みできます。⇒http://jcsw-alumni.com/

【お申込期間】 奈良セミナー⇒9月1日～10月10日 ／ 岩手セミナー⇒10月11日～11月15日

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

JCSW ネットワークを広げよう

コロナ禍での同窓会活動

厳しい状況ではありますが、まだまだできることはありそうです

今般の新型コロナ感染症の長期化は、日常生活のみならず同窓会各支部の地方集会・支部会開催も大きく制限されるなど同窓会の事業活動にも少なからず影響を及ぼしています。

福島県同窓会の菊地恵子支部長にお聞きしました

Q. 福島同窓会の状況はいかがですか

◆会員の近況報告をフィードバック

福島県同窓会の会員は、現在約60人ですが、コロナの影響により例年の同窓会活動“講演会”と“同窓会総会”が2年連続で困難となり、同窓会消滅の危惧も生じました。そのため、2020年度は会員から総会の書面評決と共に近況報告をいただき、33人からの返信をフィードバックし、ゆる～い繋がりを継続することを意識しました。

Q. 2021年度専門職大学院の福祉実践フォーラムへの参加を企画したのは？

日本社会事業大学専門職大学院の福祉実践フォーラム(公開フォーラム)は、2020年度からオンラインでの開催となっています。福島県支部では毎年母校から講師派遣を依頼して講演会を開催してきましたが、上記のように2019年度、2020年度は開催できませんでした。何とか母校と同窓会がつながる場を設けたいと考えていた折り、オンラインで行われる標記フォーラムを知り、「これだ！」と急遽役員で開催に向け準備した次第です。

Q. 開催にあたりご苦労されたこと・振り返ってのご感想などをお聞かせください。

10月2日(土)オンラインで開催された2021年度の「福祉実践フォーラム」へパブリックビューイングという形で参加しました。パブリックビューイングは初めての企画です。会場、インターネット環境(ポケットWi-Fiのレンタル)やパソコン、音響装置等必要な器具の確保等を行い、当日は大丈夫かなぁと心配しながらの実施でした。途中音声が聞き取れない等のハプニングもありましたが、大事には至らずほっとしました。

同時に、母校においても、専門職大学院福祉実践フォーラムのパブリックビューイングはきっと初めての企画だったと思います。この申し出をご快諾いただき、資料も同窓会室よりお送りいただく等、ご配慮いただいたことが何よりでした。

今回9名の同窓生が参加し、現役世代も現役を終了した世代にとっても、社大らしい質の高い企画のフォーラムへの参加は、良き学びと交流の機会となりました。集まりの機会を持てなかった前年に比べ、多少なりとも前進できたのではないかと思っています。

Q. 今後の活動について

多くの会員が同窓会に心を寄せて下さっていることは非常に大きな強みです。引き続き感染状況を考慮しながら、どのような形で活動が行えるのかコロナ禍でも可能な活動を探りながら、社大同窓生として繋がり続ける事ができるようにと考えています。

4月13日 同期会イン沖縄

学部4期生（1960年入学）

2022年度 幹事会報告

昨年に引き続き『書面』・『オンライン方式』併用での審議を実施

◆2022年度事業計画

同窓会の組織は1976(昭和51)年4月再建され、2021年再建45年(母校創立75年)を迎えたところであるが、清瀬年代の同窓生の参加が少ないといった世代交代の問題や今般のコロナによる学生環境や同窓会活動への影響もある中、同窓会の会員、そして在学生はじめ教職員、その関係者一人ひとりに「社会の福祉誰が任ぞ」が問われる時代が再来している。

同窓会は、社会福祉の実践者として「忘我の愛と智の灯」の校歌の下結集し、卒業生同士での活動だけでなく、在校生とも一緒になって今後も社大教育と実践をしっかりつないでいく。

実習現場の提供や就職支援、そのための卒業生のネットワークづくりをさらに推し進めるため(1)支部活動の活性化(2)在校生との交流を通じた支援・同窓生間の交流の促進(3)社会福祉セミナーの共催等による大学とのパートナーシップの推進にこれからも取り組んでいく。

◀同窓会活動強化のためのキーワード▶

同窓会総登録数 17,382人 **清瀬年代**(入学者) 9,238人	 **日本社会事業大学 同窓会**	会報送付数 8,100 部 **同窓会の取り組みをもっと身近に**
就職などの在学生支援 **福祉現場で活躍する** **OB・OGとの交流会** 同窓会支部コーナー設置		会費納入者(約1,500人) **同窓会基盤の強化** 会費を納入する若い世代や 在学生の参加推進
社会福祉セミナーの共催 **同窓会 × 大学** **パートナーシップ推進** コロナ禍における学生支援	修学困難学生に対する支援 五味基金の活用 **JCSWネットワーク** **職場体験等応援制度の活用**	大学広報との連携 **母校教育力の向上を目指して** 大学講座への参加、協力

母校・在校生への支援

(1)社会福祉セミナーの共催　今般の新型コロナウイルス感染症の長期化は、学生環境のみならず同窓会活動の実施にも少なからず影響を及ぼしている。このため、各支部で(仮)社会福祉セミナーを開催することで同窓会活動の活性化と母校の価値向上を図っていく。

(2)福祉現場で活躍するOB・OGとの交流会　ZOOMによるオンライン開催。「就活フェアーin社大」を同時開催

(3)JCSWネットワーク職場体験応援制度　在校生の就職活動や支部セミナーへの交通費等経費の助成(上限額1万円)

(4)同窓会「五味基金」による修学困難学生に対する奨学金支給

Ⓐ校章入りUSBメモリープレゼント　抽選で5名様に

学生自治会による卒業記念品「木製USBメモリー(校章入り)

Ⓑキャラクタークリアファイル(5枚入)プレゼント　先着10名様に

住所・氏名及び「USBメモリー」と「クリアファイル」の希望別を次のあて先までご連絡ください。

〈郵便の方〉　〒204−8555　清瀬市竹丘3−1−30
日本社会事業大学同窓会
〈FAXの方〉　042−496−3051
〈E-mailの方〉　kouyu@jcsw.ac.jp

2021年度 日本社会事業大学同窓会収支計算書
2022年度 日本社会事業大学同窓会予算

収入の部　(単位:円)

科　目	2021年度決算額	2022年度予算額
会費収入	5,323,612	5,000,000
入会金収入	0	30,000
雑収入	96,723	50,000
前年度繰越金	4,137,621	4,595,155
合　計	9,557,956	9,675,155

【収支差引額】

9,557,956(収入決算額) − 4,962,801(支出決算額) = 4,595,155(翌年度繰越額)

◆2021年度　一般運営基金現在高　19,980,217
◆2021年度　五味基金現在高　15,353,927

支出の部

科　目	2021年度決算額	2022年度予算額
会議費	66,259	200,000
委員会活動費	28,984	50,000
人件費	430,750	700,000
支部強化費	160,663	600,000
機関誌等発行費	2,504,373	2,600,000
支部出張費	8,900	250,000
通信運搬費	103,318	150,000
学内学会助成費	0	100,000
ホームページZOOM関係諸費	77,000	200,000
慶弔費	0	50,000
国際交流推進費	4,860	50,000
卒業記念品費	215,600	300,000
コロナ学生支援費	1,200,000	0
新規事業資金積立	0	1,500,000
事務局活動費	162,094	300,000
予備費	0	2,625,155
合　計	4,962,801	9,675,155

PHOTO NEWS

3月26日
顧問・正副会長・運営委員等合同会議

同窓会活動の活性化策について

11月28日
第2回運営委員会・事務局合同会議

同窓会活動の現状と課題について意見交換しました

6月25日
2022年度同窓会オンライン幹事会

“母校・在校生への支援”のため会費納入にご協力を

同窓生の皆様には会報に同封されている「同窓会年会費」納入用紙をお使いいただき、同窓会の学生教育支援などへのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

同窓会会長　岩崎俊雄

スマートフォン決済ができる様になりました

今までと同じ振込用紙で郵便局やコンビニでお振り込みされる他、スマートフォン決済ができるようになりました。※「スマートフォン(アプリ決済)」をご利用の場合は、振込用紙裏面をご確認の上ご利用ください。

常に広い視野で、楽しい、面白い と感じた瞬間を大切にしていきたい

北藤　遥香
（きたふじ　はるか）

学部59期
（2019年卒）

2018年母校ボランティアセンター「学生スタッフ1step」創設メンバー。2019年日本社会事業大学福祉計画学科卒業。同年4月医療法人久喜すずのき病院入職。地域連携室配属。

ルポルタージュ

医療ソーシャルワーカーのお仕事に関わられていますが、実際の仕事内容は？

現在、私は医療法人大壮会「久喜すずのき病院」（埼玉県久喜市）という精神科急性期病院の地域連携室で精神保健福祉士（以下PSW）として勤務しています。当院は昭和63年の開設当初から『「心と身体」・「疾病と日常」を分離することなく、人間をトータルに捉えた治療とリハビリテーションを第一の目的とする』という理念を掲げており、できるだけ開放的な雰囲気の中で治療をできるように環境づくりを心がけています。「社会から隔離しない」ことは、退院後に住み慣れた地域に戻っていき、無理なく社会復帰し、地域生活を送っていくことにもつながります。

私が配属されている地域連携室では、入院から退院までの経過を患者、家族、他職種と連携し考えながら支援しています。業務内容は、受診や入院支援、退院支援（退院後生活環境相談員）、外来対応等になります。そのため、入退院においての一連の流れを学ぶことができ、退院後の患者の地域生活を目指したケースワークを常に考えることができています。現在、勤務して4年目になりますが、当院の役割や精神保健福祉法の大枠を理解することができてきており、部署全体を見て後輩指導や病院の各種取り組みにおける会議にも参加して、活躍の幅を広げています。考えることが多く、悩み、葛藤することも多いですが、部署問わずフラットに相談、検討できるため、とても挑戦できる職場です。

精神保健福祉士を目指した理由

大学3年次の「精神保健福祉士課程」履修時には、特にPSWとして働きたいという思いはありませんでした。当初は仮にPSWの資格を取っても、社会福祉士として福祉施設や社会福祉協議会、役所に勤務するだろうと思っていましたので、PSWはさらなる資格取得の一つとしての選択でした。

しかし、PSW課程においての講義や病院実習、グループワークの中で、「当時あまり興味のなかった精神科医療」に触れ、かつ「常に興味のあった地域福祉」という分野のどちらも経験することができる場所で働いてみたいと思うようになり、そこで、現在の職場を見学したときに退院がゴールではなく、地域や生活にも目を向けているという考え方に興味を持つようになり、結果的にPSWの資格が必要な現在の職場に勤務することになりました。

学生時代はさまざまなことにチャレンジされましたね

学生時代を振り返ってみると、入学当初はテニス部や児童文化部等の種別様々なサークル活動に参加していました。私だけでなく、社大生は結構複数のサークルを掛け持ちしていた印象があります。活動として、テニスや人形劇の公演に行くだけでなく、部内のメンバー複数名でドライブをして山梨の温泉に行くことや女性メンバーで日帰り旅行をすることもありました。

ボランティア活動では、地元の学生が主体となって地域活動や育成事業に携わるボランティアや外部の日本財団で行っていたGakuvoにて、復興支援ボランティアとして福島県いわき市で他大学の学生と2泊3日で活動をしました。また、社大ボランティアセンター学生スタッフ「1Step」の立ち上げに携わり、地域イベントへの参加や他大学交流に力を入れて活動しました。学業では、グループワークを何度も行ったという印象があります。

社大の凄いところは思考力を身に着けるためのグループワークが活発で、広い視野で物事をとらえる学生が多くいたという印象が強いです。サークル活動や学業での経験を経て、とても楽しい学生生活だったと思っています。

「JCSWキャラクター」は北藤さんがデザインされたものですね

ボランティアセンターで学生スタッフが活動を始めるとなったときに、せっかく活動するならマスコットキャラクターがいたらいいな！と思いデザインしました。正直、キャラクターを作ったときは、自分がいる間のキャラクターとしてとらえていたので、今回後輩達が私のキャラクターに名前を付けてくださり、ボランセンだけでなく同窓会のキャラクターとして使用していただけていることにとても驚いています。

今後の活動と抱負などについて

地域との連携に引き続き視点を当てながら、『医療から地域分野へ』とより一層広い視野で地域生活を考えていけるように、ステップアップしていきたいと考えています。また、学生時代の頃のように、コロナ禍でも、自分の視野を広げられそうな、興味やワクワクするような活動や研修には足を運んで、実際に見て触れて考え、自己研鑽していきます。

在校生の皆さんへのメッセージ

コロナ禍で社大での学生生活の中で感じる楽しい、ワクワクといった機会に触れることが少なくなったと聞いています。これからコロナが落ち着いたとき、そういった機会を作っていくのは社大生の皆さん一人ひとりです。私自身も、卒業生として関われることへは積極的に参加し、在校生の皆さんと一緒に社大を楽しく、ワクワクできる環境を作っていきたいですね。